

第1回作業部会（わいわいサミット）議事録

開催日時：令和8年7月8日 10時～12時00分

開催場所：三光コミュニティーセンター 集会室

参加者

A	B	C	D	E
5名	6名	5名	7名	6名

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- アイスブレイクとして、各グループの参加者は互いの名前や住んでいる地域の魅力を共有した。

● グループワーク①

「地域の強み」を出し合うため、参加者は花の形の付箋を使用し、住んでいる地域の中で良いと思う点や紹介したいことを書き出した。個人ワークとして2分間の時間が設けられ、人、場所、活動内容など、地域に関連するポジティブな要素を付箋1枚につき1つずつ記入した。

- 参加者はグループ内で各々が書き出した強みを共有し、模造紙に貼り出した。具体的な地域資源として、学校が近いこと、買い物施設（ジャスコ等）の利便性、公民館活動、桃の特産品、自然の豊かさ、中学生による地域行事への参加や住民同士の挨拶活動などが挙げられた。また、歴史的な史跡の存在や、消防団などの防災組織についても意見が出た。
- 他のグループが作成した掲示内容を見学する時間が設けられた。給食ボランティアの活動や地域の米の美味しさなどが挙げられた。

● グループワーク②

「住みたい地域」をテーマに、黄色や緑の付箋を使用して意見が出された。参加者は、病院やコンビニ等の生活インフラへのアクセスの良さ、タクシー

やバスの利便性、若い世代が定着するための雇用、高齢者が参加しやすいサロンの拡充などを理想として挙げ、また、バス利用状況の低迷や病院の減少といった現状の課題も議論された。

- 地域にはどのような人が住んでいるかについて検討しました。参加者は人型イラストのシートを使用し、高齢者（後期高齢者）、一人暮らしの住民、外国人労働者、通勤者、子供などが地域に住んでいることを共有した。
- 中学校の生徒数は150人程度でしばらく減少する見込みは低い。また、地域には介護が必要な高齢者や、引きこもり、ニート状態の人々が存在しており、これらの人々に対する適切な配慮や対応が地域において重要であることが話し合われた。
- 高齢者が住みやすい地域作りについて、地域見守り名簿の活用や、隣人同士の声かけといった繋がり的重要性が議論された。日常的な訪問や登板制での見守りについては、地域での実施可能性や負担感が考慮され、まずは身近な声かけから始めることが現実的なアプローチとして確認された。
- 障害者が住みやすい地域について、孤立を防ぐための定期的な見守りや繋がり維持が重要であることが共有された。また、65歳以上の介護が必要な層と同様、顔が見える関係作りや、地域でのちょっとした声かけや見守りを継続することが重要であるという意見がまとまった。
- 外国人や移住者が住みやすい地域作りについて、挨拶や笑顔でのコミュニケーションが相互理解の重要な入り口であることが議論された。また、行事への参加を促すことや、子供を通じた世代間交流が、地域への溶け込みを促進するために有効であるとの意見が出された。
- 認知症への対応について、地域行事での子供との交流などが話題に上がる一方で、認知症の特性に対する理解が地域全体に必要であると指摘された。認知症という特性を周囲が理解し、相談しやすい環境を整えることや、GPSなどの利用が挙げられ、家族への配慮と地域の連携の必要性を感じた。
- 介護が必要な住民への支援として、関係機関への連携や相談窓口の周知の重要性が確認された。また、個人の生活状況において、孤立を防ぐための工夫や、若い世代では将来を想定しにくい現状への課題が共有され、仕事や役割を通じた他者との繋がりが重要であると述べられた。
- 各グループの発表
- 地域の繋がりの良さを強調し、挨拶や日常的な声かけによって孤立を防ぐことが重要であると提案した。また、サロン活動や地域行事に子供を巻き込むことで、世代を超えた繋がりを継続させる案が発表された。

- 自然豊かで災害が少ないという地域の魅力を上げつつ、外国人、高齢者、障害者などが共生できるよう、行事を通じて現状を知り、全世代が参加できる関係作りを目指すべき。
- 病院や学校、商業施設などの生活利便性が高い一方で、独居高齢者や障害者、外国人住民の孤立が懸念されると指摘した。解決策として、地域内での訪問や声かけを強化し、孤独を防ぐための関係構築を重視する結論に至った。
- 自然豊かな地域である一方で、独居高齢者や独身層の存在が課題として挙げられた。世代間の交流を通じた繋がり的重要性が指摘されるとともに、地域リーダーの後継者育成が喫緊の課題であり、若年層や多世代が行事に参加する機会を増やす必要があると結論付けられた。
- 学校行事を通じた地域交流が機能している現状を共有した。外出の機会作りとしてのサロン活動や、挨拶運動を通じて住民同士が交流する環境が整っていることを強調し、今後もこの温かい見守りと交流の雰囲気を受け継いでいく方針が示された。
- **次回開催の調整:** 第2回の開催時間については、今回と同じ午前中に行うことで合意、今後郵送やLINEを通じて案内する旨が説明された。